

授業の目的

各種スポーツの実践を通して、ルールの理解や基本技能の習得・向上を図り、それぞれのスポーツの特性や楽しさを理解するとともに、みんなで運動することの楽しさを味わう。

また、それらのプロセスを通して、運動に対する積極的な姿勢やチームワーク、勝利するための創意工夫など、生涯にわたって運動やスポーツに親しんでいく態度を育成する。

学生の到達目標

1. 各種スポーツのルールを理解し、基本技能を習得する。
2. 勝利するために自分で、またチームで創意工夫する。
3. チームワークの重要性を認識し、その強化のための方法を体得する。
4. ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性和その方法を体得し、安全に留意して運動する知識と態度を養う。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. バレーボール：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
3. バレーボール：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
4. バレーボール：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
5. バレーボール：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
6. ドッジボール：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
7. ドッジボール：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
8. バドミントン：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
9. バドミントン：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
10. バドミントン：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
11. 卓球：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
12. 卓球：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
13. 卓球：技能向上のための基礎練習とリーグ戦
14. エアロビック・エクササイズ
15. ニュースポーツ体験「ユニホッケー」
*使用できる場所に応じた種目を実施する。

学習課題（予習・復習）

各種スポーツにおける基本技能のポイントを毎時、復習しながら練習し、技能の習得・向上を図る。

成績評価の方法・基準

出席状況（60%）・授業態度（30%）・運動技能（10%）により総合的に評価する。

テキスト・参考文献

使用しない。

その他

授業の目的

健康とは身体的、精神的、社会的、心理的に良好であることと捉えられるが、完全に良好な人間は存在しないといっても良い。すなわち完璧さを求めるのではなく、安定もしくは快方に向かうことを求めることが大切であり、そのための考え方や工夫の仕方を身に付けることを目的とする。また、体力とは疾病や怪我になり難いようにするための防衛体力と行動体力とに分けられるが、互いに関連しており、精神力や社会的活動力、心的な力とも関連していることを理解できるようにする。

学生の到達目標

- 1 日ごろ運動不足にならないように生活活動を身につける。
- 2 日常生活の中で健康への関心を持ち積極的に運動を取り入れる。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション
- 2 体力測定実施（握力・垂直飛び・平衡感覚など）
- 3 体力測定評価・結果（握力・垂直飛び・平衡感覚など）
- 4 ドッジビー
- 5 ミニソフトバレーボール①
- 6 ミニソフトバレーボール②
- 7 リズム体操①
- 8 リズム体操②
- 9 卓球・バドミントン①
- 10 卓球・バドミントン②
- 11 ベタンク
- 12 ウォーキング
- 13 生活習慣病と運動不足病
- 14 健康とは、体力とは、障害とは
- 15 まとめ

学習課題（予習・復習）

当日資料配布を行うので復習をする。

成績評価の方法・基準

出席態度・授業意欲 60%、提出物 10%、筆記試験 20%、お手伝い・片付け 10%
計 100%

テキスト・参考文献

授業時に資料配布します。

その他

室内シューズ。運動着に着替えて行うようにして下さい。
筆記用具も必要です。

授業の目的

介護の基本となるレクリエーションやリハビリテーション、ノーマライゼーションの基礎的な概念の理解をはじめ、援助の基本的考え方や援助者の心構えについて学ぶ。

学生の到達目標

- レクリエーションの基盤にある「遊び」の価値とレクリエーションと福祉の関わりについて、歴史的変遷を通じて学習し、福祉レクリエーションに求められるQOLの向上に向けた援助や援助者について考察できる。
- 身近な事例を通じて実践的な生活支援を取り上げ、そのエッセンスを分析しながら、基本的な介護の考え方を理解できる。

授業計画・学習内容

- 介護の基本的な考え方①～生活のレクリエーション・社会福祉の発展とレクリエーション、生活のリハビリテーション、ノーマライゼーション
- 介護の基本的な考え方②～介護とレクリエーションの歴史的変遷・現状と課題～尊厳を支える介護・自立に向けた介護
- 福祉分野のレクリエーションに関わる法体系と行政施策①～レクリエーション施策と児童福祉法・老人福祉法・老人保健法・介護保険制度
- 福祉分野のレクリエーションに関わる法体系と行政施策②～レクリエーション施策と身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者自立支援制度、近年の動向～介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
- 福祉分野のレクリエーションQOL①～QOLの向上とは？～介護を必要とする人の理解
- 福祉分野のレクリエーションとQOL②～生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化
- 福祉分野のレクリエーションとQOL③～癒しとしてのレクリエーション
- 福祉分野のレクリエーションの特性①～身体活動と福祉レクリエーション
- 福祉分野のレクリエーションの特性②～文化芸術活動と福祉レクリエーション
- 福祉分野のレクリエーションの特性③～野外活動と福祉レクリエーション
- 福祉レクリエーションの分野①～医療サービス分野・保健サービス分野
- 福祉レクリエーションの分野②～社会サービス分野・生涯学習サービス分野
- 福祉レクリエーション援助の概観①～福祉レクリエーション援助とそのプロセス
- 福祉レクリエーション援助の概観②～福祉レクリエーション援助者としての介護福祉士の役割
- まとめ

学習課題（予習・復習）

成績評価の方法・基準

出席態度 60%、提出物 20%、試験レポート 20%
ただし、出席態度の評価には毎回提出するリアクション・ペーパーの記入内容や文字数・行数なども含む。

テキスト・参考文献

「福祉レクリエーション総論」中央法規
関連資料はその都度配布する

その他

授業の目的

福祉レクリエーション・ワーカー資格を取得するために必要な単位の一つでもある。いろいろな活動を間接体験することによって、福祉レク・ワーカーに必要な応用力を養うことをねらいとする。ただし、介護福祉士として重要な業務といえる「利用者の生活の質を高めること」を考える授業で必修であることから、資格取得の希望は問わない。

学生の到達目標

高齢者や障害者などの住民（施設の利用者などを含む）が地域の中で積極的につながりを持ちながら協力して生活するためのコミュニケーションと活動の場を企画し、活動を実施展開していくためのコーディネート力を身に付けることを到達目標とする。

授業計画・学習内容

- 福祉レクリエーション援助の専門性 ①福祉レクリエーション援助の構図 ②福祉レクリエーション援助の目的
- 福祉レクリエーション援助のプロセス ①A-P-I-Eプロセス ②アセスメントの方法
- ③計画～実施～記録・評価の方法
- 個別レクリエーション援助の方法 ①レジャーカウンセリングの変遷 ②基本技法に用いる余暇生活援助
- ③コミュニケーション・自己決定可能な利用者の実践
- ④コミュニケーション・自己決定困難な利用者の実践
- グループを介したレクリエーション援助の方法 ①グループレクリエーション援助の意義と効果 ②グループ・ダイナミクスと社会的相互作用
- ③グループレクリエーション援助計画～実施～記録・評価の方法
- 福祉レクリエーション援助と社会資源の活用 ①社会資源の発掘 ②社会資源の活用法
- 福祉レクリエーション援助におけるイベントプログラムの考え方と方法 ①福祉レクリエーション援助におけるイベントプログラムの意義と効果
- ②利用者のニーズ～計画～実施～記録・評価の方法
- 医療現場におけるレクリエーション援助の考え方と方法 ①レクリエーションの治療的効果
- ②活動分析～計画～実施～記録・評価の方法
- 福祉レクリエーション援助者の資質と役割 ①福祉レク・ワーカー資格について ②福祉レク援助者の研究・報告・活動組織について
- ③資格取得後の研鑽について まとめ

学習課題（予習・復習）

授業において自ら積極的に学ぶ姿勢を持つこと。映像教材を多用し解説を加えていくので、それに沿って、感じたことや深く考えたこと、想いを伝えたいことを論述する訓練を行う。

成績評価の方法・基準

出席態度 60%、提出物 20%、試験レポート 20%
ただし、出席態度の評価には毎回提出するリアクション・ペーパーの記入内容や文字数・行数なども含む。

テキスト・参考文献

「福祉レクリエーション援助の方法」中央法規
「福祉レクリエーション援助の実際」中央法規
関連資料はその都度配布する。

その他

授業の目的

対人援助の専門職である介護福祉士としての職業倫理および対人援助における基本的な倫理について理解し、体得する。また、地域社会の一員としての利用者の存在意義を理解し、利用者のQOLの向上を目指した援助実践のための地域連携の方法及び意義について理解する。

学生の到達目標

- 1 対人援助の意義、重要性について理解し、言語化できる。
- 2 利用者の人権、よりよく生きる権利について認識できる。
- 3 利用者援助の上での介護福祉士の役割と課題が理解できる。
- 4 利用者支援に活用できる地域のサポート源について理解できる。
- 5 地域の社会資源との連携の方法について理解し、活用できる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 対人援助専門職としての倫理①
3. 対人援助専門職としての倫理②隣接領域の専門職の倫理綱領
4. 介護従事者に求められる倫理①
5. 介護従事者に求められる倫理②介護福祉士の倫理綱領
6. 利用者の人権と介護①—プライバシー保護
7. 利用者の人権と介護②—利用者主体性、自己決定
8. 介護者の人権について
9. 介護実践における地域連携①目的と意義
10. 介護実践における地域連携②フォーマル資源との連携
11. 介護実践における地域連携③フォーマル資源との連携
12. 介護実践における地域連携④インフォーマル資源との連携
13. 介護実践における地域連携⑤インフォーマル資源との連携
14. 介護実践における地域連携⑥ネットワーク作り
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- 1 介護・福祉全般に幅広く興味を持ち、新聞記事や関連書物に接して動向をチェックすること。
- 2 地域連携の実践について、地域の保健福祉関係者からの体験談を聞く機会を設ける。
- 3 地域の福祉機関に向いて、連携の実践について学ぶ機会を設ける。

成績評価の方法・基準

出席 20%、提出物 30%、試験 50%、計 100%

テキスト・参考文献

随時、資料配布

授業の目的

介護を必要とする人を生活の観点から捉え、生活を支援する専門職としての介護福祉士の役割について学ぶ。また、利用者の生活支援に関わる他の専門職の種類及び多職種連携のシステムについて理解する。

学生の到達目標

- (1) 要介護高齢者援助にかかわる様々な社会資源について基本的な理解ができる。
- (2) 高齢者を支援する地域のケアシステムについて理解できる。
- (3) 多職種連携、チームアプローチの必要性を認識する。
- (4) チームアプローチにおける留意点について理解できる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 人間の多様性・複雑性の理解
3. 要介護高齢者の暮らしの実際
4. 要介護高齢者の地域生活を取り巻く環境
5. 要介護高齢者が利用する保健・医療・福祉サービス
6. 介護サービスの全体像
7. 介護保険制度下のサービス
8. 介護保険制度外のサービス
9. 地域のインフォーマル社会資源
10. ケアマネジメントの仕組み
11. ケアマネジメントのケアプランの実際
12. 多職種連携（チームアプローチ）の意義と目的
13. 地域ケアの意義と目的（地域福祉現場職員の話）
14. 地域包括支援センターの役割と機能
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- 1 住んでいる市町村の高齢者福祉の動きについて興味・関心を持ち、ボランティア活動等、地域の福祉に関わる機会を作るとよい。
- 2 地域の介護・福祉関係機関に向いての学外授業により、チームアプローチの実際を学ぶ機会を設ける。
- 3 地域の福祉関係者より現場の話聞く機会を設ける。

成績評価の方法・基準

出席率 20%、試験 80%により総合評価。

テキスト・参考文献

随時、資料配布

その他

授業の目的

介護はチームで行う専門的実践である。そこで、介護福祉士にはチームケアを行う多職種との連携を図る能力が求められる。この授業では、介護業務におけるチームアプローチの必要性を理解し、チームアプローチの方法について理解することを目的とする。

学生の到達目標

- (1) 介護を必要とする利用者の理解や援助の基本となるコミュニケーションが理解できる。
- (2) 利用者の生活支援にかかわる多職種の機能・役割について理解できる。
- (3) 利用者の家族との関わり、多職種協働におけるコミュニケーション技術を学び、基礎的能力が身につく

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 対人援助におけるコミュニケーションの意義
3. 介護場面におけるコミュニケーションの意義
4. コミュニケーションの基本原則
5. コミュニケーションの技法
6. コミュニケーション演習（傾聴と共感）
7. コミュニケーション演習（障害のある人とのコミュニケーション）
8. 多職種連携におけるコミュニケーションの重要性
9. 情報の共有化のための記録の意義
10. 介護実践記録作成の方法
11. 介護実践における報告の意義と目的
12. 報告・連絡・相談の方法
13. 介護実践における会議の意義と目的
14. 会議の方法と留意点
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

演習形式の授業であるため、受講生の積極的な授業参加が求められる。

成績評価の方法・基準

出席率 20%、授業参加度 20%、試験 60%、計 100%。

テキスト・参考文献

黒澤貞夫・小熊順子、介護福祉士養成テキスト7『コミュニケーション技術』、建帛社、2009

その他

授業の目的

1. 介護福祉学で学んだ理論をふまえて介護技術を習得する
2. 介護技術提供時の根拠をふまえ実践することができる
3. 自立支援に向けた介護技術を習得する
4. 習得した介護技術を介護過程の展開に結びつける

学生の到達目標

1. 基本的な介護技術から応用した技術を実践できる
2. 利用者の人権・尊厳に配慮した介護技術が実践できる
3. 自立支援に向けた介護技術を提供できる
4. 介護過程の展開するための技術とその根拠を理解する

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 医療との連携（1）
3. 医療との連携（2）
4. 医療との連携（3）
5. 自立に向けた介護（1）
6. 自立に向けた介護（2）
7. 自立に向けた介護（3）
8. 自立に向けた介護（4）
9. 自立に向けた介護（5）
10. 事例に基づいた介護（1）
11. 事例に基づいた介護（2）
12. 事例に基づいた介護（3）
13. 事例に基づいた介護（4）
14. 実技効果測定
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

1. 基本介護技術の予習・反復練習に取り組むこと
2. 実技演習にふさわしい身なりで臨むこと

成績評価の方法・基準

提出物	10%
実技効果測定	10%
筆記試験	80%
合計	100%

テキスト・参考文献

『介護技術学』 学文社

その他

授業の目的

リハビリテーションの理念を理解する。介護士に必要な主な疾患、障害の理解や基本的な訓練の方法を習得する。また、リハビリテーションと ICF の理念を活かして自立に向けた移動の介護を展開できるようにし、日常生活の自立支援および社会生活能力の維持拡大の援助について理解する。

学生の到達目標

1. リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。
2. 主な疾患、障害の影響を理解する。
3. 日常生活の自立支援および社会生活能力の維持、拡大への基本的な援助方法を知る

授業計画・学習内容

1. リハビリテーションの理念と基本原則
2. リハビリテーションの領域と役割
3. 障害別リハビリテーションの実際
4. 障害別リハビリテーションの実際
5. 障害別リハビリテーションの実際
6. リハビリテーションにおける自立に向けた移動の介護
7. リハビリテーションに関する社会資源
8. リハビリテーションと福祉用具
9. 住宅改造、福祉のまちづくり
10. 地域リハビリテーション
11. 終末期リハビリテーション
12. リハビリテーションに必要な技術(実技)
13. リハビリテーションに必要な技術(実技)
14. 復習
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- ・授業内容を復習すること。

成績評価の方法・基準

平常点（授業態度、出席状況）10%、試験90%、計100%

テキスト・参考文献

テキスト：最新介護福祉全書 別巻2「リハビリテーション論」
メヂカルフレンド社

その他

授業の目的

高齢者、障害者（児）が健康な毎日を送るためには、何よりもバランスのよい食生活が基本となる。介護福祉士として高齢者、障害者（児）の個性を尊重し、個々のニーズを的確に把握し、自立支援、介護予防に向けた食事支援を考える。栄養・調理の基礎知識、調理器具の使い方、調理上の工夫、材料や調理の保存方法を実習・演習を通して習得する。また、食品の選別、栄養、食品衛生に留意し、さまざまな身体状況に適した献立の実習を行なう。高齢者、障害者（児）にとって楽しい食環境を整え、QOLの向上を目指す。

学生の到達目標

- 1 高齢者、障害者（児）の食事について理解し、食事作りを楽しむ
- 2 個々のニーズにあった献立を考え、調理を行なうことができる
- 3 食生活に関心を持ち、実習・演習に意欲的に取り組む

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション（高齢者と障害者の食生活）
- 2 栄養バランスのよい日常食実習
- 3 咀嚼 嚥下困難な場合の食事
- 4 カルシウムを効果的に摂る食事実習
- 5 鉄を効果的に摂る食事実習
- 6 塩分を抑えた食事実習
- 7 油脂を抑えた食事実習
- 8 食物繊維をしっかり摂る食事実習
- 9 エネルギーを抑えた食事実習
- 10 消化のよい食事実習
- 11 行事食の実習
- 12 献立作成と栄養価計算演習
- 13 自主献立実習
- 14 実技試験
- 15 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- 1 自分自身の食生活をマネジメントできるように心がける
- 2 普段から食事作りに関わる
- 3 自主的な学習態度が必要である
- 4 毎回の授業内容をノートに整理し、参考文献などを引用し復習する。実習後は、考察・感想をノートにまとめ提出する。

成績評価の方法・基準

実技試験 30%、筆記試験 30%、レポート 20%、
出席状況・授業態度 20%、計100%

テキスト・参考文献

参考文献

「介護福祉士のためのクッキング第三版」 和辻 敏子 編著者
(理工学社)

五訂増補 食品成分表 2010

その他

調理実習を行なうため、エプロン、三角巾、マスク、ふきん、手ふきタオルを持参すること。

授業の目的

住まう場の構成要素、機能を理解し、快適で安全に住まうこと、施設の維持管理ができる素養を養う。

学生の到達目標

日常生活、介護業務において、住まう空間を理解し、改善提案などができ、より快適で安全かつ効率的な生活空間を構想できる視野をもつ。

授業計画・学習内容

1. 生活の場の構成要素(用・強・美)の強について学習する
防災について学び、地震時の液化現象の実験を行う
2. 住居の管理と安全を学ぶ。施設の防災設備を調べる
3. バリアフリーの手法を学び計画する
4. 住居の計画で、機能・ゾーニング・動線の手法を学習する
5. ユニットケアの施設を例題に集団生活の空間を計画する
また、建築設備とその管理について学ぶ
6. ユニットケア施設の平面図作成により表現技術を学習する
7. 模型作成により住空間を立体的視点で見ることを学習する

学習課題（予習・復習）

1. 介護実習、で体験した場所の、長所、欠点、改良されている所を整理し、演習に反映する。
2. 日常生活の場を常に改善しようとする態度を養う。

成績評価の方法・基準

提出作品・レポート70%、学習態度20%、出席10%、計100%

テキスト・参考文献

随時プリントを配布する

その他

授業の目的

繊維や糸、布などの被服素材に対する理解を深めるとともに、介護福祉士として高齢者・障害者が快適に生活するための被服や繊維製品とはどのようなものかを考える。

学生の到達目標

1. 繊維、糸、布の成り立ちが理解できる。
2. 繊維製品の性能が理解できる。
3. 高齢者・障害者の被服を考えることができる。

授業計画・学習内容

1. 繊維の成り立ち：繊維の種類
2. 繊維の成り立ち：繊維の性質
3. 糸の成り立ち：繊維から糸をつくる
4. 布の成り立ち：糸から布をつくる
5. 繊維製品の保健衛生的性能
6. 繊維製品の力学的性能
7. 繊維製品の外観形態安定性能
8. 繊維製品と洗濯

学習課題（予習・復習）

レポートを作成することで、理解できたことは何か、理解できなかったことは何かを整理すること。

成績評価の方法・基準

レポート100% 計100%

テキスト・参考文献

テキスト：日下部信幸著『衣生活のもの作りと科学実験』家政教育社
参考資料：適宜配布

その他

授業の目的

福祉レクリエーション・ワーカー資格を取得するために必要な単位の一つである。いろいろな活動を行うための環境はそれ自身が文化となつて人々の生活活動を支える。これらの文化を間接体験することによって、福祉レクリエーション・ワーカーに必要な応用力を養うことをねらいとする。ただし、介護福祉士として重要な業務といえる「利用者の生活の質を高めること」を考える授業であるので、資格取得の希望は問わない。

また、福祉分野の生活環境では住環境をしっかりと押さえておく必要がある。本講義では、東京商工会議所が認定する資格「福祉住環境コーディネーター2級および3級」の資格を取得するために、以下の内容を理解することを目的とする。①高齢者の身体的な特性や疾病別の症状と必要な介護、医療、福祉、建築および福祉用具に関する全般的な知識 ②介護保険などの福祉に関する諸制度や福祉住環境コーディネーターの社会的役割 ③「生活の質(QOL)」や介護者による介助の際の力の軽減に繋がる住宅改修の基本的な方向性

学生の到達目標

福祉の現場での文化を考え、支援の考え方、個人を中心に周囲に集団、さらにその周囲に社会システムを置く支援方法の理解と福祉領域における環境の在り方「生きる目標を持ちながらどのように幸せに過ごしていくか」をテーマに、その基礎を理解する。

授業計画・学習内容

1. ガイダンス（授業の進め方、検定試験の概要など）
2. 過去から現代までの高齢社会と福祉住環境整備
3. 福祉住環境コーディネーターの役割と福祉レクリエーション・ワーカーの役割
4. 社会福祉と住環境整備の考えに基づく福祉文化
5. 高齢者の心身の機能と特性
6. 高齢者介護のあり方に通じる福祉文化
7. 高齢者に対する諸関連施設とサービス
8. 関連専門職への理解と連携
9. 福祉住環境整備の進め方
10. 福祉住環境整備の基礎知識
11. 福祉住環境整備の基本技術
12. 部屋別・場所別福祉住環境整備の仕方
13. 福祉用具の活用と福祉文化
14. 福祉住環境整備の疾患・障害別応用技術
15. 未来の福祉住環境と福祉文化

学習課題（予習・復習）

授業において自ら積極的に学ぶ姿勢を持つこと。映像教材を多用し解説を加えていくので、それに沿って、感じたことや深く考えたこと、想いを伝えたいことを論述する訓練を行う。

成績評価の方法・基準

授業における積極性、課題の提出、レポートの総合評価とする。
出席 60%、提出物 20%、レポート 20%

テキスト・参考文献

「改訂版福祉住環境コーディネーター検定3級テキスト」東京商工会議所
「高齢者のための心理学」保育出版
関連資料はその都度配布する。

その他

授業の目的

福祉レクリエーション・ワーカー資格および障害者スポーツ指導員（初級）を取得するために必要な単位の一つでもある。いろいろな活動を直接または間接体験することによって、福祉レクリエーション・ワーカーや障害者スポーツ指導員に必要な応用力を養うことをねらいとする。ただし、介護福祉士として重要な業務といえる「利用者の生活の質を高めること」を考える授業であるので、資格取得の希望は問わない。

学生の到達目標

1. 高齢者や障害者などの住民（施設の利用者などを含む）が地域の中で積極的につながりを持ちながら協力して生活するためのコミュニケーションと活動の場を企画し、活動を実施展開していくためのコーディネート力を身に付ける。
2. 障害者の自立と社会参加につながるスポーツやレクリエーション活動について学習し、身のまわりで潜在的に運動に対するニーズのあると思われる高齢者や障害者に、健康や体力の維持・増進と人間交流の場を提供できる能力を習得する。

授業計画・学習内容

1. スポーツ経営管理に関わる障害者福祉論：社会福祉と障害者問題
2. スポーツと身体の仕事に関わる健康・体力づくり：健康・体力の概念と健康な生活を送るための条件
3. スポーツ心理に関わるスポーツの精神的・社会的意義、自立とスポーツの意義
4. スポーツ指導に関わる安全管理：スポーツ事故の実態と基本的予防対策
5. スポーツ指導に関わるレクリエーション概論：レクリエーションの意義と効果、活動支援上の留意点
6. 障害の理解に関わる障害概論：全国障害者スポーツ大会の障害区分に関わる障害
7. 障害の理解に関わるリハビリテーション概論：リハビリテーションの概念とスポーツの役割
8. スポーツ実技：障害者が日常楽しんでいるスポーツの体験や工夫の仕方の理解：車いすバスケットボール
9. サウンドテーブルテニス（盲人卓球）、車椅子卓球
10. シットイングバレーボール
11. グランドソフトボール（盲人野球）
12. ボッチャ、ドッジビー
13. ブラインドテニス、車椅子テニス
14. 車いすラグビー
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

授業において自ら積極的に学ぶ姿勢を持つこと。映像教材を多用し解説を加えていくので、それに沿って、感じたことや深く考えたこと、想いを伝えたいことを論述する訓練を行う。

成績評価の方法・基準

出席態度 60%、提出物 20%、試験 20%
ただし、出席態度の評価には提出されたリアクション・ペーパーの記入内容や文字数・行数なども含む。

テキスト・参考文献

「福祉レクリエーション援助の実際」中央法規
「福祉実践をサポートする介護概論」保育出版社
関連資料はその都度配布する。

その他

授業の目的

レクリエーション援助の方法と技術とは何かを考え、レクリエーションが個人を中心とした地域の人々すべてのものとなるような援助方法を考察するとともに、福祉領域におけるICFの考え方に基づいた生活支援のあり方「遊びを基盤とした健康的な余暇生活の獲得と幸福な人生の創造」をテーマに、パーソンセンタード・ケアの展開を学習する。

学生の到達目標

介護福祉士の資格取得に必要な介護過程の展開に関する基礎知識・技術を獲得する。

授業計画・学習内容

- 1 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ①
～ICFに基づいたレクリエーション財の考え方と活動分析
- 2 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ②
～活動分析ワークシートとレクリエーション実技
- 3 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ③
～障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ、アセスメント
- 4 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ④
～福祉レクリエーション援助における目標設定活動選択シートと援助計画シート
- 5 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ⑤
～利用者に合わせたアレンジとレクリエーション財の分析と提供の仕方（事例）
- 6 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ⑥
～活動の継続・発展を促すレクリエーション財の提供方法
- 7 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ⑦
～楽しみを基調とした様々な療法
- 8 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ⑧
～福祉レクリエーション実技
- 9 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ⑨
～心と体に優しい運動「ほっかほか体操」
- 10 介護過程の展開のためのレクリエーション財の開発とアレンジ⑩
～高齢者の健康づくりに向けたプログラム開発
- 11 介護過程の展開のための対人援助技術-援助者の人的資源と援助者のためのコミュニケーション技術
- 12 介護過程の展開のための対人援助と非言語的コミュニケーション
- 13 介護過程の展開のための援助者の人間開発トレーニング
- 14 介護過程の展開のためのパーソン・センタード・レクリエーション援助の実際
- 15 まとめ

学習課題（予習・復習）

テキストの内容を授業の事前事後に把握・確認しておくこと。

成績評価の方法・基準

出席態度 60%、提出物 20%、試験レポート 20%
ただし、出席態度の評価には毎回提出するリアクション・ペーパーの記入内容や文字数・行数なども含む。

テキスト・参考文献

「福祉レクリエーション援助の実際」中央法規
「福祉実践をサポートする介護概論」保育出版社

その他

授業において自ら学ぶ姿勢を持つこと。映像教材を多用し解説を加えていくので、それに沿って、感じたことや深く考えたこと、想いを伝えたいことを論述する訓練を行う。

また、自分や他人の実技を通して経験的に学習する。

授業の目的

介護サービス利用者の生活ニーズに基づき、様々な社会資源を調整し、利用者の個別的な生活ニーズを充足していく援助方法であるケアマネジメントの仕組みや援助方法について学ぶ。また、介護福祉士として、ケアマネジメントにどのように関わるのか、多職種連携の実際についての基礎を学ぶ。

学生の到達目標

- (1) ケアマネジメントの基本的な内容を理解できる。
- (2) ケアマネジメントで活用する社会資源の概要を理解できる。
- (3) 地域でのソーシャルネットワークについて理解できる。
- (4) アセスメントとケアプラン作成の基本を理解し、実際に作成できる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. ケアマネジメントとは何か（概要）
3. ケアマネジメントの考え方と目的
4. 介護福祉士とケアマネジメントの関連
5. ケアマネジメントの分野
6. 介護保険制度下のケアマネジメントの実際
7. ケアマネジメントの構成要素
8. ケアマネジメントの対象
9. ケアマネジメントにおいて活用する社会資源
10. ケアマネジメントの展開過程（プロセス）1
11. ケアマネジメントの展開過程（プロセス）2
12. ニーズアセスメントの視点と意義
13. アセスメントとケアプランの実際
14. 諸外国の高齢者援助とケアマネジメント
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- 1 演習形式の授業なので、積極的な授業参加が求められる。
- 2 ケアマネジメントの現場に出向いて、学ぶ機会を設ける。
- 3 現役のケアマネジャーからケアマネジメントの実際について話を聞く機会を設ける。

成績評価の方法・基準

出席状況（20%）、レポート（80%）により総合的に評価する。

テキスト・参考文献

随時、資料配布。

その他

授業の目的

1. 介護実習Ⅲ・Ⅳに向けた総合的な学習とその理解
2. 在宅介護実習に向けた具体的な学習とその方法の理解
3. 介護過程の展開に向けた具体的な学習とその方法の理解

学生の到達目標

1. 介護実習Ⅲ・Ⅳに必要な知識・技術・価値観を習得する
2. 在宅介護サービスを総合的に理解し実習に臨むことができる
3. 介護過程の展開を総合的に理解し実習に臨むことができる

授業計画・学習内容

1. 在宅介護実習に向けた学習（1）
2. 在宅介護実習に向けた学習（2）
3. 在宅介護実習に向けた学習（3）
4. 介護過程の展開の理解 情報収集
5. 介護過程の展開の理解 アセスメント
6. 介護過程の展開の理解 アセスメント
7. 介護過程の展開の理解 アセスメント
8. 介護過程の展開の理解 アセスメント
9. 介護過程の展開の理解 アセスメント
10. 介護過程の展開の理解 介護計画の立案
11. 介護過程の展開の理解 介護計画の実施・修正
12. 介護過程の展開の理解 サマリ
13. 介護過程の展開の理解 まとめ
14. 在宅介護実習オリエンテーション
15. 実習記録のまとめ

学習課題（予習・復習）

1. 介護実習に向けての具体的な内容となるため予習・復習をすること
2. 課題レポートの作成を怠らないこと
3. 実習のてびきをよく読むこと

成績評価の方法・基準

課題レポート提出	50%
出席状況	50%
合計	100%

テキスト・参考文献

- ・実習のてびき
- ・配布資料

その他

授業の目的

介護実習全体を振り返り、介護福祉士としての実習の課題を明らかにする。
介護実習の振り返りから自己洞察を深める。

学生の到達目標

介護福祉士養成課程学習のまとめを実施し、実習事例報告会を開催し、実習事例報告書を作成する。

授業計画・学習内容

- 1 介護実習のまとめ1) ケース発表について
- 2 介護実習のまとめ2) ケース発表の書き方
- 3 介護実習のまとめ3) ケース発表の書き方
- 4 介護実習のまとめ4) ケース発表のまとめ
- 5 介護実習のまとめ5) ケース発表のまとめ
- 6 介護実習のまとめ6) ケース発表のまとめ
- 7 介護実習のまとめ7) ケース発表のまとめ
- 8 実習事例報告会 1) ケース発表の仕方
- 9 実習事例報告会 2) ケース発表の仕方
- 10 介護福祉士養成課程学習のまとめ1) 人間と社会1
- 11 介護福祉士養成課程学習のまとめ2) 人間と社会2
- 12 介護福祉士養成課程学習のまとめ3) 介護1
- 13 介護福祉士養成課程学習のまとめ4) 介護2
- 14 介護福祉士養成課程学習のまとめ5) ころとからだのしくみ
- 15 介護福祉士養成課程学習のまとめ6) ころとからだのしくみ

学習課題（予習・復習）

随時必要となる

成績評価の方法・基準

成果物 30%、レポート 20%、出席状況 50%、計 100%

テキスト・参考文献

授業時の配布資料

その他

介護実習Ⅲ 権玄珠・仲田勝美・稲垣美保子

授業の目的

地域で生活する利用者の在宅介護を支援する福祉サービス全体を理解し、その中で介護の特性と機能を学ぶ。

学生の到達目標

1. 在宅福祉サービスの概要を理解する。
2. 在宅で行われている介護を見学し、在宅介護の実際を理解する。
3. 利用者の在宅での生活の実際を理解する。
4. 利用者とのコミュニケーションができる。

授業計画・学習内容

1. 事前準備（実習の課題、自己学習）を行う。
2. 実習施設へ事前訪問を行う。
3. 5日の実習期間のうち、訪問介護実習を3日間、通所介護実習を2日間実施する。
4. 実習終了後に、在宅実習全体をふりかえって報告書を作成する。

学習課題（予習・復習）

1. 欠席、遅刻しないことが最も重要である。
2. 提出物の期限厳守すること。
3. 学生らしく実習目的、課題を達成するために積極的に取り組むこと。

成績評価の方法・基準

出席（30%）と実習内容（70%）で総合評価。

テキスト・参考文献

介護実習の手引き

その他

介護実習Ⅳ 権玄珠・仲田勝美・稲垣美保子

授業の目的

1. 利用者を受け持ち、障害の形態・レベルに応じた個別の介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができること。
2. 24時間を通じた介護実践及び利用者の生活の様子を理解する。

学生の到達目標

1. 利用者の個性性に配慮した介護過程が展開でき、そのことを評価できる。
2. 介護過程において求められる情報収集・アセスメント・ニーズの抽出・介護計画の立案・実施・評価という各要素を段階的に理解した上で、取り組むことができる。

授業計画・学習内容

1. 事前学習（実習の課題・自己学習）指導
2. 実習施設への事前訪問（報告書提出）
3. 具体的な4週間の流れ
 - 1) 第1週目
実習施設の概要の理解、
受け持ち利用者の決定と情報収集の実施
 - 2) 第2週目
受け持ち利用者への介護を中心に実践し、アセスメントを進める
 - 3) 第3週目
受け持ち利用者の介護ニーズの把握を行い、介護計画を立案する
 - 4) 第4週目

介護計画を実践・評価・修正を行い、介護過程自体をまとめる
※第2週～第4週目にかけて夜間実習を1日実施する

学習課題（予習・復習）

1. 実習目標が到達できるよう積極的に取り組むこと。
2. 介護実習指導時に配布された資料はファイリングし、実習時に活用すること。
3. 礼節をもって施設利用者に関わること。
4. 実習にあたり「実習の手引き」をよく読んでおくこと

成績評価の方法・基準

実習評価	100%
計	100%

テキスト・参考文献

実習のてびき

その他

授業の目的

- ・ 発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
- ・ 人間の成長と発達、老年期の発達と成熟、老化に伴うこととからだの変化、高齢者の健康について理解する。

学生の到達目標

- ・ 老化に伴う心身の変化の特徴、日常生活への影響、高齢者に多い病気と日常生活上の留意点、保健医療職との連携等について学習する。

授業計画・学習内容

1. 人体の成長と老化 (p33~38)
2. 老人性疾患 (1) 老年病とは、栄養、目、耳、味覚、歯 (p40~46)
3. 老人性疾患 (2) 骨粗鬆症、認知症、パーキンソン病 (p47~50)
4. 老人性疾患 (3) 脱水、貧血、性 (p50~52)
5. 生活習慣病 (1) 高血圧、脳血管障害(脳卒中) (p53~59)
6. 生活習慣病 (2) 虚血性心疾患など (p59~63)
7. 生活習慣病 (3) 糖尿病、高脂血症、痛風 (p63~69)
8. 骨・関節の疾患 (1) (p85~91)
9. 骨・関節の疾患 (2)、神経疾患、筋の疾患 (p91~95)
10. 在宅医療の実際、在宅医療における連携 (p200~210)
11. 連携の実際 (p210~217)
12. 救急医療体制、緊急時の対応 (p218~225)
13. 分野別の保健医療対策 (3) 老人保健 (p257~267)
14. 医事法制の概要、基本的な医事法規 (p276~286)
15. まとめ

学習課題 (予習・復習)

- ・ 予習：あらかじめ該当ページの教科書を読んでおく。
- ・ 復習：レジメを参照して各自サブノートを作成する。

成績評価の方法・基準

- ・ 定期試験 80%、出席率 10%、授業態度 10%、計 100%

テキスト・参考文献

- ・ テキスト：新版 介護福祉士養成講座 9 第 4 版 「医学一般」中央法規
- ・ 参考文献：
 - 毎回配付するレジメ
 - 発達と老化の理解 医学出版社
 - これからの老年学 サイエンスから介護まで 第 2 版 名古屋大学出版会

その他

- ・ 講義中の私語は厳禁です。

授業の目的

発達の観点からの老化を理解させ、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎知識をもとにした応用的支援の方策を習得させる。

学生の到達目標

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎知識をもとにした応用的支援の方策を習得する。

授業計画・学習内容

- 1 高齢者に関連する学問：高齢者に関する学問とその周辺領域として関連する専門分野の理解・・・トピックス 1. 老年学
- 2 加齢と老化：老年期の発達と成熟に関する老化の生理的・心理的な本質の理解・・・トピックス 2. 高齢者差別
- 3 高齢期と発達課題：超高齢社会におけるライフサイクルの中の課題・・・トピックス 3. 生涯発達理論
- 4 高齢期の生理的変化 I：脳神経・骨・関節・内分泌・代謝の加齢変化と心理的な意味・・・トピックス 4. 高齢者と糖尿病
- 5 高齢期の生理的な変化 II：呼吸器・循環器・消化器・腎機能の加齢変化と心理的な意味・・・トピックス 5. タイプ A
- 6 高齢期の心理的な変化 I：身体と運動・感覚と知覚・注意と記憶の加齢変化と生活適応の意味と対応・・・トピックス 6. 外的代償法
- 7 高齢期の心理的な変化 II：思考と知能・感情と欲求・社会性と道徳性・自我と性格の加齢変化と生活適応・・・トピックス 7. 高齢者の言語障害
- 8 高齢期における生活環境：家庭環境・地域環境・職場環境・社会環境における対人関係と生活の質・・・トピックス 8. ミニデイケア
- 9 高齢期のライフイベント：役割の変化・退職・離別・死別・死に関する心理的な対応や支援・・・トピックス 9. 死生学
- 10 高齢者の心理的な理解：心理臨床的理解の基本（観察・面接・検査による理解）・・・トピックス 10. MOSES（高齢者用多元観察尺度）
- 11 高齢者の心理的な援助：適応上の問題解決につながる心理的治療法・・・トピックス 11. 動物介在療法
- 12 高齢期の精神障害と対応：精神障害の症状・原因・診断・治療の流れと家族支援・・・トピックス 12. 認知リハビリテーション
- 13 高齢期におけるヘルスプロモーション：健康・生活能力・自立能力の改善・向上と社会貢献・・・トピックス 13. 老年ケア
- 14 高齢期におけるウェルネスライフ：生活習慣・余暇活動・就学・就労・・・トピックス 14. サクセスフル・エイジング
- 15 試験およびまとめ

学習課題 (予習・復習)

「介護福祉」に必要な基本的考え方やその応用的支援方法を理解する。毎回授業に関連したテキストの箇所を事前に読んでおくこと。授業中の意見交換に積極的に参加すること。授業の半分は、各トピックスの事前学習をグループで行い次回に発表する演習形式で行う。

成績評価の方法・基準

授業における積極性、課題の提出、レポートの総合評価とする。
出席態度 60%、提出物 20%、試験 20%

テキスト・参考文献

- 「高齢者のための心理学」保育出版
- 「保育実践を支える健康」福村出版

その他

授業の目的

1. 認知症の理解に求められる基礎知識の習得と理解
2. 認知症ケアの実践例から認知症の理解と援助の方法について学ぶ
3. 認知症への社会保障制度（マクロ・メゾ・ミクロの3側面）の実際から求められる社会的なサポートのあり方について学ぶ

学生の到達目標

1. 認知症高齢者への適切な介護が実践できるようになる
2. 認知症を地域で支える社会資源を理解し活用できるようになる
3. 認知症高齢者介護の方法論を習得し実践できるようになる

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション「認知症とはなにか」
2. 認知症の基礎知識（1）
3. 認知症の基礎知識（2）
4. 認知症の基礎知識（3）
5. 認知症の基礎知識（4）
6. 認知症ケアの方法論（1）
7. 認知症ケアの方法論（2）
8. 認知症ケアの方法論（3）
9. 認知症ケアの方法論（4）
10. 認知症ケアの方法論（5）
11. 認知症へ向けた社会保障 -マクロ視点-（1）
12. 認知症へ向けた社会保障 -メゾ視点-（2）
13. 認知症へ向けた社会保障 -メゾ視点-（3）
14. 認知症へ向けた社会保障 -ミクロ視点-（4）
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

1. 根石学区における認知症予防教室に参加する
2. 授業内で認知症ケアサポーターを取得する

成績評価の方法・基準

レポート提出 10% 筆記試験 90% 合計 100%

テキスト・参考文献

編集 長谷川和夫
『認知症の理解－介護の視点からみる支援の概要－』建帛社(2008)

その他

授業の目的

現在は空前絶後の超高齢者社会に突入しつつある。そんな中で医療介護に携わる人々にとって認知症の理解はきっても切り離せない分野である。認知症に関する基礎知識の習得、認知症の特性、介護のポイントなどを、深く理解してもらいたい。医学的側面からの認知症の基礎（いわゆる回復可能な認知症との鑑別、BPSD 対策）およびその心理も含めて理解していただきたい。

学生の到達目標

1. 認知症の基礎的理解
2. 医学的側面からの認知症の理解
3. 介護的側面からの認知症の理解
4. その他、基礎的な精神疾患についての理解

授業計画・学習内容

1. 総論
2. 精神保健の概要 1
3. 精神保健の概要 2
4. 認知症についての医学的知識 1
5. 認知症についての医学的知識 2
6. 個々の精神疾患 1
7. 個々の精神疾患 2
8. 個々の精神疾患 3
9. 個々の精神疾患 4
10. 個々の精神疾患 5
11. 個々の精神疾患 6
12. 認知症の介護 1
13. 認知症の介護 2
14. 認知症の介護 3
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

予習は特に必要ありませんが、復習はしっかりとしてください。

成績評価の方法・基準

授業態度、出席 30%、試験 70%、計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：水野裕著「実践パーソン・センタード・ケアー認知症をもつ人たちの支援のために ワールドプランニング」

その他

授業の目的

高齢者や障害者の特性や生活上の問題を理解する。ノーマライゼーションの理念を基盤に、保健・医療・福祉の連携の必要性を理解し、対象者が自己実現できるよう、必要な知識と介護技術を習得する。

学生の到達目標

1. 高齢者や障害者の特性に応じた介護に関する知識、個別的な介護技術を習得する。
2. 疾病、障害者の医学的側面の基礎知識を学習し、対象者の理解、生活の支援、介護の実際について理解する。
3. 対象者の身体、心理、社会について残存機能に応じた適切な援助を理論的根拠に基づき、アセスメントできる能力を養うとともに、介護技術に結びつけることができる。
4. 対象者に合った各種福祉用具について理解し、実際の使用方法が理解できる。
5. 在宅介護、内部障害者、言語障害者、精神障害者、知的障害者の特性に応じた介護を実践できる。

授業計画・学習内容

1. 障害の基礎的理解と障害の概念や障害者福祉の基礎を理解する。
2. 聴覚、言語障害について理解する。
3. 福祉用具の種類、使用方法について理解する。
4. 精神障害者について理解する。
5. 精神障害者の生活上の支援と家族への支援について理解する。
6. 保健、医療、福祉機関との連携と協働について理解する。
7. 知的障害者について理解する。
8. 知的障害者の生活上の支援と家族への支援について理解する。
9. 発達障害について理解する。
10. 内部障害について理解する。
11. 心機能障害者について理解する。
12. 腎機能障害者について理解する。
13. 小腸、大腸、膀胱機能障害者について理解する。
14. 重複障害者について理解する。
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

予習、復習し、解らないところはきちんと理解することが望ましい。

成績評価の方法・基準

授業態度など平常点 30%、試験 70%、計 100%。

テキスト・参考文献

テキスト：『障害の理解』谷口敏代 [編] メジカルフレンド社
参考文献：ミネルヴァ書房編集部 [編] 『社会福祉小六法』
山縣文治、柏女霊峰 [編] 『社会福祉用語辞典』ミネルヴァ書房

その他

遅刻、欠席をしないこと。学習の進行が早く、内容も専門的であるため理解できなくなる。

授業の目的

視覚障害と点字について理解を深め、視覚障害者のニーズに対応するための知識を得る。

学生の到達目標

短文の点字の読み書きができる。

授業計画・学習内容

- 1 視覚障害の基礎的理解、点字の概要・歴史、点字の単語の読み書き
- 2 視覚障害者の状況、点字の独特な文法
- 3 視覚障害者への接し方、点字の数字
- 4 視覚障害者の福祉制度、点字の独特な数字
- 5 中途失明者の社会復帰と触読、点字のアルファベット
- 6 視覚障害者が利用できる福祉施設、点字の外国語
- 7 点訳の現状、点字の文章の書き方・記号類
- 8 中間まとめ（1-8担当：川合）

学習課題（予習・復習）

1. 毎回最初に前回の内容について、最後にその日の内容について小テストをする。
2. やむを得ず欠席する場合は、その日の授業について自習するか級友に聞いて学習する。

成績評価の方法・基準

小テスト 40%、最終試験 50%、授業態度 10%、計 100%

テキスト・参考文献

『初めての点訳』（株）大活字

その他

授業の目的

聴覚障害者のコミュニケーションの一つである手話を学ぶと共に、聴覚障害者の暮らしを知り、障害への理解を深め適切な介護ができるようにする。

学生の到達目標

1. 手話やその他のコミュニケーション方法を身につける。
2. 手話を学ぶことで聴覚障害者と簡単な会話ができるようにする。

授業計画・学習内容

- | | | |
|--------------|-------------|-----------|
| 1. 聴覚障害の基礎知識 | コミュニケーション方法 | 会話・あいさつ |
| 2. 手話の基礎知識 | (教育) | 会話・名前 |
| 3. 聴覚障害者の暮らし | (生活用具) | 会話・家族 住所 |
| 4. 聴覚障害者の暮らし | (健康・制度) | 会話・趣味 |
| 5. 聴覚障害者の暮らし | (仕事) | 会話・数字 仕事 |
| 6. 聴覚障害者の体験談 | | 会話・実用的な例文 |
| 7. 試験及びまとめ | | |

学習課題（予習・復習）

積極的な態度で授業に取り組み、課題を達成する。

成績評価の方法・基準

提出物 30%、実技・筆記試験 70%、計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：厚生労働省手話奉仕員養成講座 入門課程対応
新「手話教室」
発行 社会福祉法人全国手話研修センター
発売 財団法人 全日本ろうあ連盟出版局

参考文献：聴覚・言語障害者とコミュニケーション 一橋出版

その他授業の目的

特に高齢者のこころのしくみ（心理）についてとり上げ、加齢によって起こりうる心身の変化とそれによる日常生活上の問題、さらにその対応方法について考える。

学生の到達目標

この授業で学んだことを実際の高齢者介護・援助場面で活かせるようにすることを目標とする。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 老化とは
3. 老年期のパーソナリティと適応
4. 老化が及ぼす心理的影響
5. 老いの受容
6. 老化にともなう身体機能の変化と日常生活への影響
7. 記憶機能の変化
8. 認知機能の変化
9. 老年期の精神的変化と精神障害
10. 認知症
11. 認知症への対応
12. 介護される高齢者のこころ
13. 高齢者の心理測定と心理療法
14. 高齢者との関わり方
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

授業前にはテキストをあらかじめ読んでください。
授業後には、配布資料に目を通し、各自まとめを行い、理解を深める努力に努めてください。

成績評価の方法・基準

試験およびレポート	80%
授業への出席状況、	10%
授業態度	10%
	計 100%

テキスト・参考文献

新・介護福祉士養成講座
11 「発達と老化の理解」

その他

授業中の私語・飲食は禁止します。
授業内容について質問があるときは、授業中・授業後に関わらず積極的に質問してください。
なお、授業中質問があるときは、手を上げて質問してください。

授業の目的

人間の加齢に伴う心理的变化を学ぶとともに、障害が及ぼす心理的影響について理解し、障害者への対応についての理解を深める。

学生の到達目標

障害者に関する知識・理解を深める。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 障害について（障害論）
3. 乳児期・児童期の心の理解
4. 青年期・高齢者の心の理解
5. 視覚障害者の心の理解
6. 聴覚障害者の心の理解
7. 言語障害者の心の理解
8. 肢体不自由者の心の理解
9. 知的障害者の心の理解
10. 発達障害者の心の理解
11. 情緒障害者の心の理解
12. 精神障害者の心の理解
13. 病弱・虚弱・内部障害の心の理解
14. 障害者の援助について
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

授業中に提示する情報について、事前・事後に調べることで、学習の補完と理解を深めること。

成績評価の方法・基準

出席状況 20%、授業態度 30%、試験 50%、計 100%

テキスト・参考文献

随時提示します。

その他

長時間の映像資料を見るために、補講を行うことがあります。
社会情勢（事件や政治等）に合わせて内容・順番・進度を変更することもあります（上記の通り進まないこともあります）。

授業の目的

アニマルセラピーと言われる活動は、マスコミに取りざたされるような奇跡を起こすものではないことを知り、動物介在介入と定義されるこの活動の真の意味を理解する。動物介在介入に含まれる、動物介在活動を福祉の現場に取り入れた場合の効果を正しく理解するとともに、動物の福祉について考える。

学生の到達目標

動物介在介入を AAT(動物介在療法), AAA(動物介在活動), AAE(動物介在教育)に分類理解し、これら活動の効果と可能性を知るとともに、老人福祉施設をはじめとする各施における具体的活動法を知り、現場への導入方法を身につける。

授業計画・学習内容

- 1 回目 言葉の定義・活動を作り上げてきた団体
- 2 回目 動物介在介入の歴史
- 3 回目 なぜ、動物なのか
- 4 回目 動物の適性と選択
- 5 回目 犬について
- 6 回目 猫について
- 7 回目 活動の担い手
- 8 回目 施設の評価と事前の準備
- 9 回目 特別介護施設での活動
- 10 回目 発達障害者施設や病院等での活動
- 11 回目 刑務所、厚生施設での活動
- 12 回目 動物介在活動以外での活動(主に動物介在教育)
- 13 回目 プログラムの立案
- 14 回目 動物介在活動の展望
- 15 回目 試験およびまとめ

学習課題（予習・復習）

成績評価の方法・基準

提出物 20%、筆記試験 80%、計 100%

テキスト・参考文献

よくわかる！アニマルセラピー
動物介在療法の基礎とケーススタディ
メリー・R・バーチ 著
高柳友子 監訳
山本央子 翻訳

その他

授業の目的

レクリエーション・インストラクター資格を取得するために必要な単位の一つである。いろいろな事業に参加することによって、インストラクターに必要な実践力を養うことをねらいとする。

学生の到達目標

1. インストラクターの役割を理解する。
2. インストラクターとしての、実践力を身につける。

授業計画・学習内容

1. レクリエーション実習の目的
2. レクリエーション実習の実施方法
3. レクリエーション実習の注意事項
4. レクリエーション実習 I 事前指導
5. レクリエーション実習 I
6. レクリエーション実習 I 事後指導
7. レクリエーション実習 II 事前指導
8. レクリエーション実習 II
9. レクリエーション実習 II 事後指導
10. レクリエーション実習 III 事前指導
11. レクリエーション実習 III
12. レクリエーション実習 III 事後指導
13. 資格申請について
14. まとめ
15. レポート提出

学習課題（予習・復習）

積極的に事業参加に取り組むこと。

成績評価の方法・基準

出席 30%、レポート 70%、計 100%

テキスト・参考文献

レクリエーション支援の基礎(日本レクリエーション協会)

その他

授業の目的

介護予防運動を理解する為に必要な単位の一つである。いろいろな事業や活動に参加することによって、介護予防運動の指導に必要な実践力を養うことを目標とする。

学生の到達目標

介護福祉士として、自分の心身のヘルスプロモーションのみならず、利用者の方や家族の方などに対するヘルスプロモーションを支援できるようにするため、いろいろな事業や活動に参加することによって、介護予防運動の指導に必要な実践力を養うことを目標とする。

授業計画・学習内容

オリエンテーション～ヘルスプロモーション実習の目的・方法・注意事項

- ① 高齢者体力測定の実業見学およびボランティア援助実習
- ② 健康増進施設における機能訓練体験実習
- ③ 健康体づくり体験実習

ヘルスプロモーション実習①～まとめレポート提出
ヘルスプロモーション実習②～まとめレポート提出
ヘルスプロモーション実習③～まとめレポート提出

学習課題（予習・復習）

各事業や活動に積極的に参加し、その事業の意義や運営方法を学んでいくこと。

成績評価の方法・基準

事業参加、事前・事後指導、レポート等で総合評価する。
参加 60%、提出物 20%、試験レポート 20%

テキスト・参考文献

参考文献：「指導者のための介護予防完全マニュアル」

その他

授業の目的

高齢者、障害者を対象とした実践的研究を行うことをねらいとする。
テーマは「幸福な生活」に関するあらゆることの中から、自分で選定する。

学生の到達目標

研究成果を論文としてまとめて発表する前段階の中間発表をすることを到達目標とする。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 研究の手引き
3. テーマの設定
4. 文献検索
5. 資料収集
6. 事前調査
7. 計画策定
8. 現場での実験、アンケート調査など①
9. 現場での実験、アンケート調査など②
10. 現場での実験、アンケート調査など③
11. 結果分析、考察①
12. 結果分析、考察②
13. 結果分析、考察③
14. 中間発表準備
15. 中間発表

学習課題（予習・復習）

授業において自ら積極的に学ぶ姿勢を持つこと。

成績評価の方法・基準

授業における積極性、中間レポートの提出、発表内容の総合評価とする。
出席態度 60%、提出物 20%、中間発表 20%

テキスト・参考文献

関連資料はその都度配布する。

その他

授業の目的

日本の高齢者福祉の現状や将来の課題などについて、諸外国との比較の視点から考え、分析するという視点からの取り組みを試みる。まず、地域福祉の視点から、身近な地域社会の中での高齢者福祉の課題を把握し、地域福祉に貢献できる実践活動を企画・運営する。その活動を客観的に振り返り、結果を論文、または報告書としてまとめる。

学生の到達目標

- (1) 自らの興味関心、問題意識から地域福祉の課題に気づくことができる。
- (2) 課題への気づきをまとめ報告する能力、問題解決に向けての実践的取り組みの準備や運営などプロセスについて理解できる。
- (3) 実践内容を分析・考察し、論文、または報告書の形でまとめることができる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 資料収集の方法
3. 高齢者福祉の理解（1）
4. 高齢者福祉の理解（2）
5. 高齢者福祉の理解（3）
6. 地域の福祉課題の理解（1）
7. 地域の福祉課題の理解（2）
8. 地域の福祉課題の理解（3）
9. 地域福祉実践活動（1）
10. 地域福祉実践活動（2）
11. 地域福祉実践活動（3）
12. 論文・報告書の書き方（1）
13. 論文・報告書の書き方（2）
14. 前期総括
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

自分の関心のあることを論文のテーマとして具体的に絞るためには、一人で考えるより色々な文献を読んだり、現場を見学したり、仲間や教員の意見を聞いたりすることが効果的です。様々な経験や実践をとおして、自分の考えを整理していくようにして下さい。

成績評価の方法・基準

出席状況（20%）、発表や議論に参加する姿勢（20%）、論文の内容（60%）より総合評価。

テキスト・参考文献

随時、資料配布。

その他

授業の目的

1. 日本における様々な場面における高齢者介護の実態・課題を明らかにし、考えうる問題解決の方法及び提言を目指す。
2. 基本的な論文作成の作法を習得する
3. 論文の作成段階となるため、より自身の興味、関心を明確にしなが、実際の調査を実施する。
4. 論文の執筆を通して思考力を鍛える。
5. 論文の完成

学生の到達目標

自身の関心を深めるためにも、基礎的な学習が必要となり、前期はそのような観点から研究を進め、その過程でグループによる報告書を作成・完成させる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 論文作法 (1)
3. 論文作法 (2)
4. 日本の介護事情 (1)
5. 日本の介護事情 (2)
6. 日本の介護事情 (3)
7. 日本の介護事情 (4)
8. 日本の介護事情 (5)
9. 日本の介護事情 (6)
10. 調査方法の基礎 (1)
11. 調査方法の基礎 (2)
12. 調査方法の基礎 (3)
13. フィールドワーク (1)
14. フィールドワーク (2)
15. フィールドワークまとめ

学習課題 (予習・復習)

主体的な参加を求めため、指示した文献・論文等に関する読み込み、準備等を求める。

成績評価の方法・基準

- | | |
|-----------|------|
| 1. レポート提出 | 10% |
| 2. 論文提出 | 90% |
| 計 | 100% |

テキスト・参考文献

ゼミナール時に指示する

その他

フィールドワークとして介護施設等に出向くことがあり、そのための事前学習に取り組むこと。

授業の目的

テーマは「障害者福祉を考える」。障害がある当事者の意見や要求、実態に基づいて、障害者の生活・自立・ノーマライゼーションをキーワードに障害者福祉を考える。

学生の到達目標

卒業研究 I では、テーマ設定のための学習を中心とする。文献学習と、体験学習として施設見学、当事者からのヒアリングなど行い、障害者の生活実態、ニーズなどを探る。

授業計画・学習内容

1. テーマ設定のための基礎学習 ①
2. 同上 ②
3. 同上 ③
4. 同上 ④
5. 学習のまとめ 討論 ①
6. 同上 ②
7. 体験学習 施設見学、当事者ヒアリングなど ①
8. 同上 ②
9. 同上 ③
10. 同上
11. 同上
12. 体験学習のまとめ、討論 ①
13. 同上 ②
14. 論文の書き方についての学習 ①
15. 同上 ②

学習課題 (予習・復習)

障害がある当事者の視点を大切にするため、施設や当事者・当事者団体とかかわった活動に積極的に参加してほしい。

成績評価の方法・基準

出席日数 50%、参加姿勢・グループへの貢献度 50%で評価する。

テキスト・参考文献

テキストは使用しない。参考文献は随時紹介する。

その他

特になし

授業の目的

高齢者、障害者を対象とした実践的研究を行うことをねらいとする。
テーマは「幸福な生活」に関するあらゆることの中から、自分で選定する。

学生の到達目標

研究成果を論文としてまとめて発表することを到達目標とする。

授業計画・学習内容

1. 論文の書き方①
2. 論文の書き方②
3. 論文の書き方③
4. 論文の作成①
5. 論文の作成②
6. 論文の作成③
7. 論文の作成④
8. 論文の作成⑤
9. 論文の作成⑥
10. 論文の作成⑦
11. 論文の発表① 学生フォーラムにおけるポスター発表など
12. 論文の発表② 学生フォーラムにおけるポスター発表など
13. 論文の発表③ 学生フォーラムにおけるポスター発表など
14. 論文のまとめ、論文集の完成①
15. 論文のまとめ、論文集の完成②

学習課題（予習・復習）

授業において自ら積極的に学ぶ姿勢を持つこと。

成績評価の方法・基準

授業における積極性、論文の提出、発表内容の総合評価とする。
出席態度 60%、ポスター発表提出物 20%、完成論文 20%

テキスト・参考文献

関連資料はその都度配布する。

その他

授業の目的

日本の高齢者福祉の現状や将来の課題などについて、諸外国との比較の視点から考え、分析するという視点からの取り組みを試みる。まず、地域福祉の視点から、身近な地域社会の中での高齢者福祉の課題を把握し、地域福祉に貢献できる実践活動を企画・運営する。その活動を客観的に振り返り、結果を論文、または報告書としてまとめる。

学生の到達目標

- (1) 地域の高齢者の生活課題を分析し、その解決のための実践活動の計画作成ができる。
- (2) 参加者の特性を理解し、実践活動のプログラムを用意し、活動の運営ができる。
- (3) 実践内容を分析・考察し、論文、または報告書の形でまとめることができる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 地域高齢者の理解－文献検討
3. 地域高齢者の理解－地域視察
4. 実践活動の準備－文献、資料収集・分析
5. 実践活動の準備－計画立案
6. 地域福祉実践活動
7. 実践活動の評価
8. 地域福祉実践活動
10. 実践活動の評価
11. 論文・報告書の作成（1）
12. 論文・報告書の作成（2）
13. 論文・報告書の作成（3）
14. 総括・まとめ
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

自分の関心のあることを論文のテーマとして具体的に絞るためには、一人で考えるより色々な文献を読んだり、現場を見学したり、仲間や教員の意見を聞いたりすることが効果的です。様々な経験や実践をとおして、自分の考えを整理していくようにして下さい。また実践において重要なチームワークの意義を認識し、行動できるようにする。

成績評価の方法・基準

出席状況（20%）、発表や議論に参加する姿勢（20%）、論文の内容（60%）より総合評価。

テキスト・参考文献

随時、資料配布。

その他

授業の目的

1. 日本における様々な場面における高齢者介護の実態・課題を明らかにし、考えうる問題解決の方法及び提言を目指す。
2. 基本的な論文作成の作法を習得する
3. 論文の作成段階となるため、より自身の興味、関心を明確にしながら、実際の調査を実施する。
4. 論文の執筆を通して思考力を鍛える。
5. 論文の完成

学生の到達目標

自身の関心を深めるためにも、基礎的な学習が必要となり、前期はそのような観点から研究を進め、後期は基礎的な学習を踏まえ、研究論文の執筆を進め、完成させる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 論文執筆法 (1)
3. 論文執筆法 (2)
4. 論文執筆 (1)
5. 論文執筆 (2)
6. 論文執筆 (3)
7. 論文執筆 (4)
8. 論文執筆 (5)
9. 中間報告 (1)
10. 中間報告 (2)
11. 調査結果の分析、考察 (1)
12. 調査結果の分析、考察 (2)
13. 論文執筆 (6)
14. 論文執筆 (7)
15. 論文発表

学習課題 (予習・復習)

主体的な参加を求めため、指示した文献・論文等に関する読み込み、準備等を求める。

成績評価の方法・基準

- | | |
|-----------|------|
| 1. レポート提出 | 10% |
| 2. 論文提出 | 90% |
| 計 | 100% |

テキスト・参考文献

ゼミナール時に指示する

その他

論文作成において随時必要なフィールドワークを実施することがあるためその目的を理解するよう努めること。

授業の目的

テーマは「障害者福祉を考える」。地域福祉研究Ⅰでの学習をもとに、論文のテーマを設定し、そのための文献学習、資料収集し論文を執筆する。

学生の到達目標

論文の作成。

授業計画・学習内容

1. テーマ設定についての討論 ①
2. 同上 ②
3. 研究計画の作成
4. 研究計画に基づいた学習、資料収集執筆 ①
5. 同上 ②
6. 同上 ③
7. 同上 ④
8. 同上 ⑤
9. 中間発表 討論
10. 中間発表 討論
11. 論文作成 ①
12. 同上 ②
13. 同上 ③
14. 最終報告
15. まとめ

学習課題 (予習・復習)

地域福祉研究Ⅱではテーマに基づいた論文の執筆が中心となる。授業以外での学習、論文作成のための時間が必要とするので、時間を見つけて個人・グループでの活発な学習活動をしてほしい。

成績評価の方法・基準

論文 70%、ゼミ活動への貢献度、出席状況 30%を目やすとして評価する。

テキスト・参考文献

テキストは使用しない。参考文献は随時紹介する。

その他

特になし